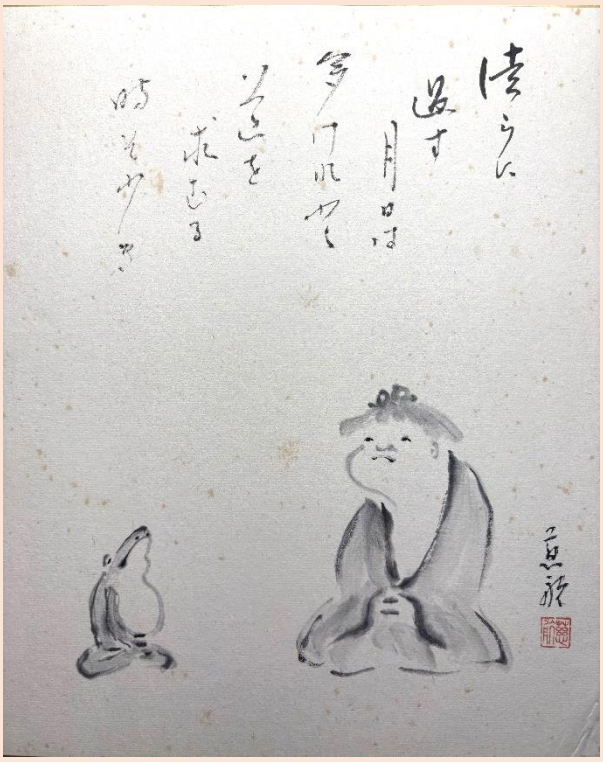
長光寺だより

いたずらに　過ごす月日は　多けれど
道を求むる　時ぞ少なき

宗祖である道元禅師のお言葉です。人生は思っているほど長くはなく、有意義な時間を過ごせる時間は案外少ないのだという教え。新しい年を迎えるからこそ、心に留めておきたいお言葉です。



▲長光寺所蔵墨蹟

千手観音さまの手

長光寺住職

本堂の正面はご本尊さまとして仏教の始祖であるお釈迦さまが安置されています。私どもの宗派はおおむねお釈迦さまがご本尊さまです。長光寺のご本尊さまは開山された安土桃山時代から、先の大戦でも焼失しないで今日まで伝えられている大変貴重な仏さまです。

そして東側にはやや大きな千手観音さまが立ち姿でまつられています。千手観音さまは本来ならば千本の手があります。しかし実際には技術的に少し難しいようで、現在では多くが省略されています。

先日お参りの方が赤ちゃんを抱いておいでだったので、ちょっと赤ん坊を抱かしてもらいました。その時に無心の顔を見ながら、ふと思ったことがあります。

赤ん坊はなにもできません。ものを食べさせてもらったり、着替えさせてもらったりします。母親や周りの人がどれだけ手をかけているか、私たちは赤

ん坊の頃にどれだけ手をかけて育てていただいたのか、改めて思ったものです。

自分が今日までどれだけ多くの人のお世話になったのか、どれだけ多くのおかげさまをいただいて生きてきたのかと思うと、それを今日ではすっかり、忘れているおのれ自身が恥ずかしくなりました。

坂村真民詩集に「手が欲しい」という詩があります。

目が見えない子が描いた
お母さんという絵には
いくつもの手がかいてあった
それを見たときわたしは
千手観音さまの実在をはっきり知った
それ以来あの一本一本の手が
いきいきと生きて
見えるようになった
異様なおん姿が
すこしも異様ではなく
真実のおん姿にみえるようになった

（『坂村真民詩集第五巻』より）

目の見えない小さな子どもがお母さんの絵を描きました。するとお母さんの手がたくさん描かれました。ごはんを食べさせてくれる手、着替えを手伝ってくれる手、どこへ行くにも手を引いてくれる手。そんなたくさんの手がありました。

今日この私をどれだけ多くの人が、どれだけ多くの力が、どれだけの手が……と思いをめぐらすことによって何かの苦難に遇い、折れそうな心も、逆に芯のある心に変わります。

▲長光寺本堂にある千手観音像

千手観音さまは千本の手を差し伸べて、私たちを救ってくださることを表しているのです。私たちはこうした千や万もの手に支えられて、今こうして生きています。自分一人では生きているわけではありません。親はもとより多くの人にお世話になり、生きている人だけではなく亡くなった方たちにも見守られて生かされているのです。

人間は生きる上においていろいろなことで悩みます。人間関係や、或いは仕事を円滑に進めるためにすることが、生きることが即ち悩みとなります。

人生を真剣に生きることは大事なことですが、しかし、必要以上に悩みを持つと、鬱病になったり、身体を壊したり、思わぬ事故を起こしたりもいたします。それは人間を苦しめるのは自分で勝手に作る、おのれの妄想が、一番自分自身を苦しめるのです。

そんな妄想が起こったとき、是非、無心の赤ちゃん時代を思い出してもらいたいものです。

今年の流行語に「50―50」というものあります。アメリカ大リーグで活躍している大谷選手の本塁打と盗塁の数字です。彼の活躍はもちろん努力と才能の賜物ですが、見方を変えると、目を輝かせる少年時代の無心の野球少年の姿があるように思えます。好きなものにひたむきに向き合えるのも無心の一つの才能のようです。

施食会のお知らせ

例年通り五月二十三日に開催予定です。ご先祖様を供養する大切な行事です。ぜひご都合をつけてご参加ください。

ご法事の服装について

ご法事の際、喪服や黒い服装をするべきでしょうか、とよく尋ねられます。それに対し、お寺側としては周りの方が不快にならない服装でしたら、どの服装でも問題ありません。とよくお答えしています。特に真夏の喪服は皆さん辛そうですからね。迷う際には親族の方で事前に話し合って、決めるのもいいかもしれません。ご無理はなさらないようにお願いします。

墓地のお供えものについて

最近カラスが供えられている陶器製の器を割ったり、花を引っこ抜いたりして遊んでいます。

被害をすべて未然に防ぐのは困難なため、大事な器は他の器などに替えるなどして、各家で対策をしていただけると助かります。

編集後記

今年は春夏秋冬というより、夏夏冬冬といった感じでした。近年は温暖化により日本の四季が薄れつつあるというのは、とても寂しい物があります。季節ごとの詠まれた詩がわからなくなる時代が、いつかくるのでしょうか。薄れつつある季節を大切にして、過ごしていきたいと思います。

〒一六九-〇〇七三
東京都新宿区百人町一の五の二
☎（〇三）三二〇九-五三六〇
玉寶山　長光寺